

ActiveImage Protector on Wasabi

QUICK GUIDE



ActiveImageTM 2022
PROTECTOR

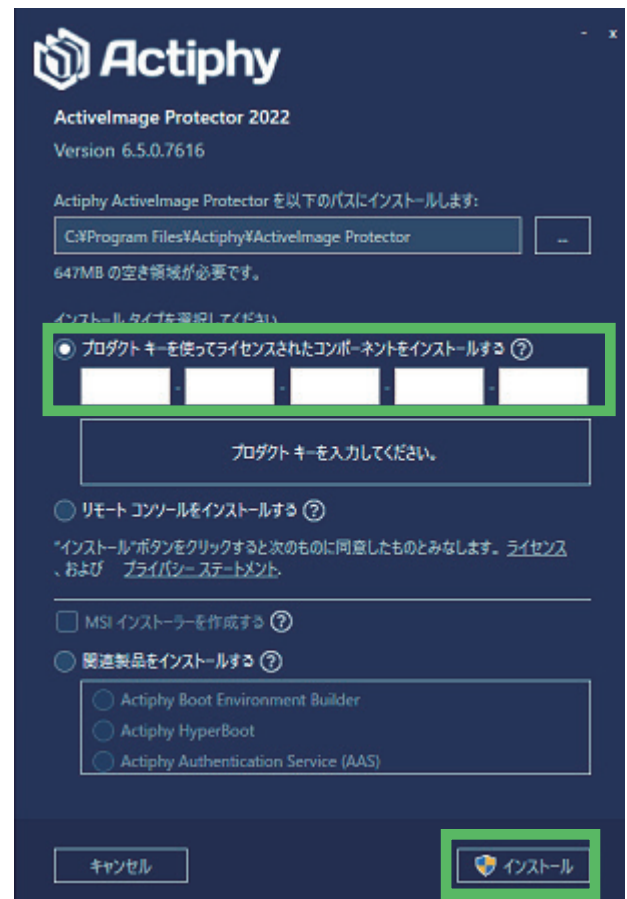
— ActiImage Protector 2022 での Wasabi の利用について —

ActiImage Protector をバックアップ対象のマシンにインストールします。各対象マシンにより必要なライセンスの製品が異なりますので、ご確認の上ご購入ください。

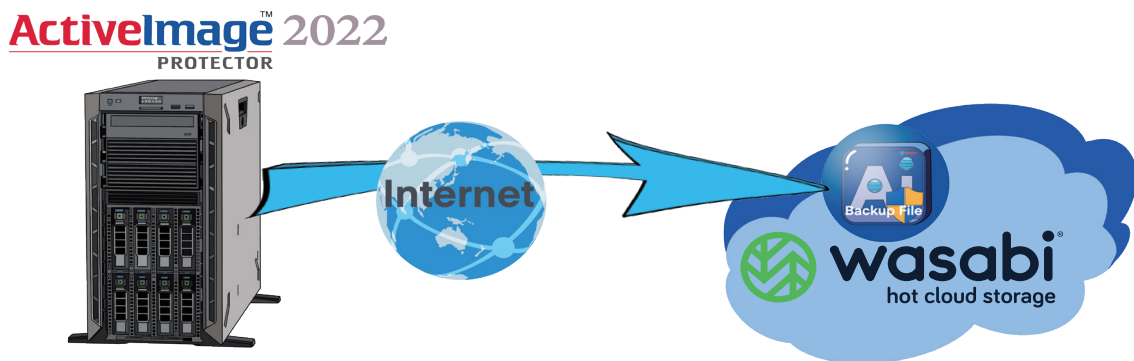
Setup を実行すると右図のように表示されます。製品プロダクトキーを入力後、「インストール」をクリックして下さい。

自動的にインストールが完了しますので、その後再起動なしで、直ぐにご使用頂けます。

製品のアクティベーションは、今回はインターネット上のオブジェクトストレージである Wasabi を対象としているので、オンラインで行われます。



このガイドは、ActiImage Protector 2022 のバックアップ保存先として、オブジェクトストレージである、Wasabi を保存先として、バックアップ運用するための専用ガイドです。



※このガイドでは ActiImage Protector 2022 がインストールされた状態から、新規のバックアップタスク作成を行う部分より記述しています。このガイドに記載のない、製品のアクティベーション、インストールなどにつきましては、下記のアクティファイの関連資料または、製品ご購入時に同梱された、弊社サポートセンターまでお電話、メールを頂ければ弊社エンジニアが対応させていただきます。

<https://www.actiphy.com/ja-jp/support/tech-resource/>

※Wasabi に保存したファイルなどの取り出しには、firedrive などを使用すると、Windows エクスプローラーのような操作で簡単に運用することができます。必要に応じてお好みのツールをご使用されることをお勧めします。

・ ActiVImage Protector バックアップタスク作成

ActiVImage Protector をインストールすると作成されるデスクトップアイコンなどをクリックして起動を行います。



○ ActiVImage Protector のタスク作成は、下記の順番で設定を行います。

- 1. バックアップ対象の選択と方式
- 2. 保存先の設定 (Wasabi の設定を行います) その他圧縮率、パスワード設定他の設定
- 3. スケジュールなどタスク動作のタイミングの設定
- 4. 世代管理の設定など
- 5. 確認と実行

起動すると下記の画面のようにコンソールが起動されます。ここでは、初めに wasabi へのバックアップを直接行うための、バックアップタスクを作成します。下図の緑枠部分をクリックして、バックアップタスクの作成ウィザードを起動してください。

ActiVImage Protector

操作 表示 環境設定 ユーティリティ ヘルプ

win-ub9bjbgpcqd

ダッシュボード

バックアップ

スタンバイ

復元

In-Cloud Reco...

In-Cloud Stan...

イメージ管理

仮想化

ローカル ホスト

ホスト: win-ub9bjbgpcqd

ドメイン: WORKGROUP

IP アドレス: 192.168.80.128

ユーザー: user

RescueBoot : 未有効化

マウント: なし

タスク: なし

0.0 %

ダッシュボード

HyperAgent

ハイパーバイザー	仮想マシン名	バックアップ ステータス	前回実行日時
----------	--------	--------------	--------

システム健全性ステータス

現在のタスク

タスク ログ

スケジュール

ディスク情報

名前	ファイル システム	ボリューム容量	使用済み容量	関連ディスク
ディスク0				
ローカル ディスク (C:) NTFS	NTFS	60.0 GB	14.0 GB	ディスク0

Basic ダイナミック ディスク ボリューム ダイナミック ボリューム

ディスク0

Basic (MBR)

60.0 GB

使用済み: 14.0 GB

ローカル ディスク (C:)

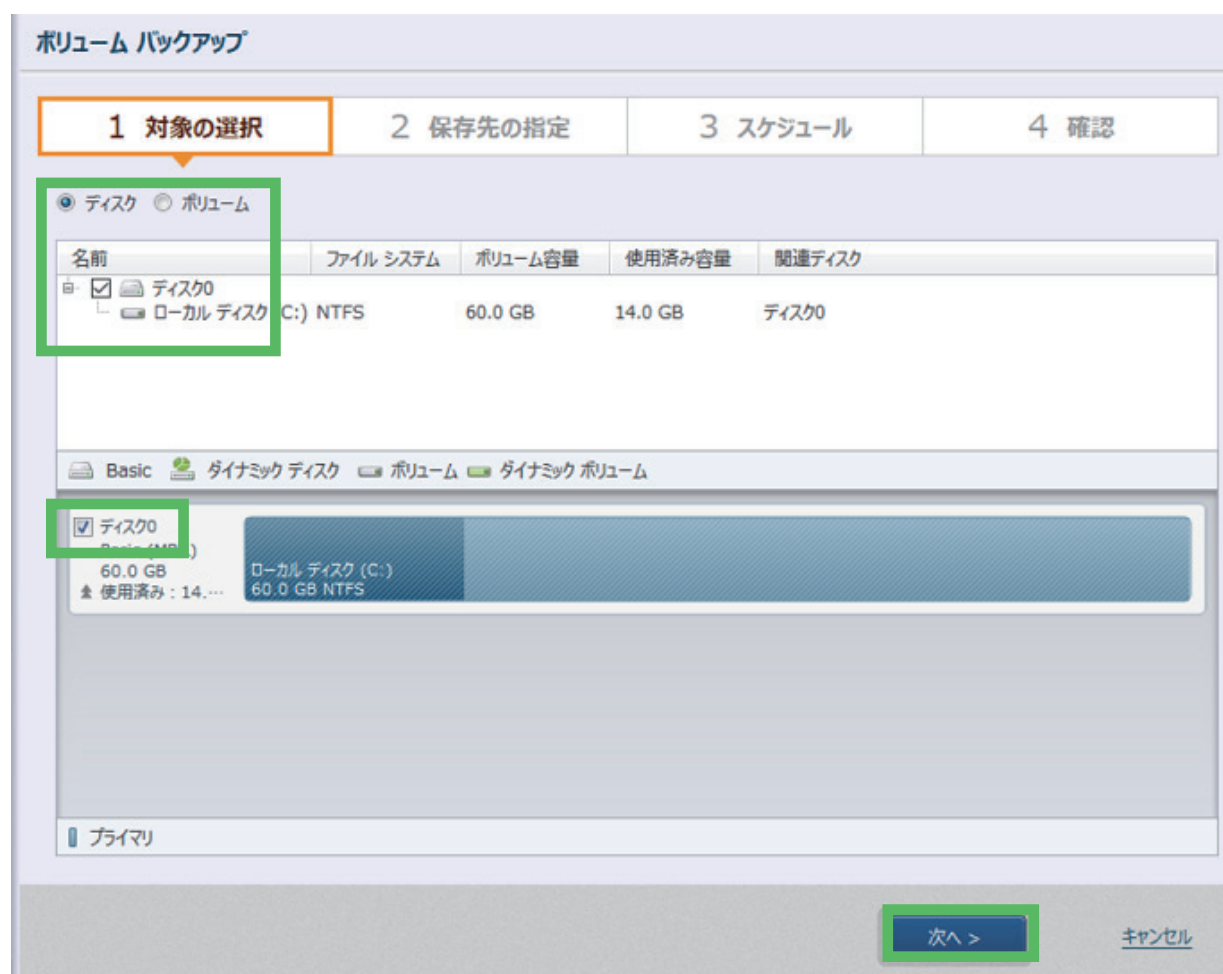
60.0 GB NTFS

プライマリ

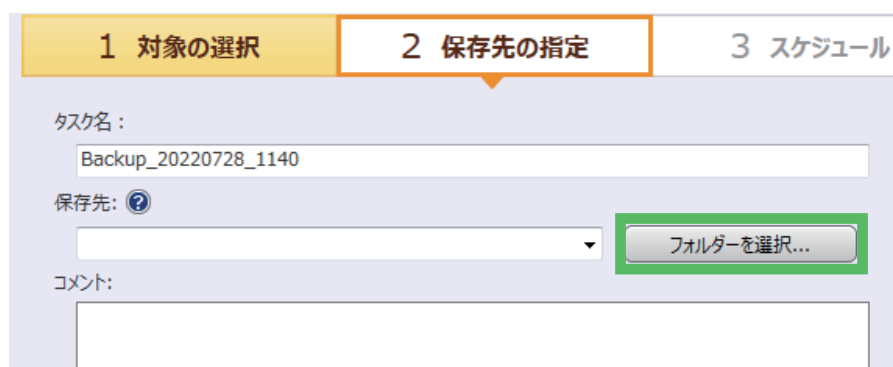
下記の画面のように表示されるため、「ボリュームバックアップ」をクリックして下さい。



バックアップ対象を設定します。バックアップ方式は「ディスク」単位がデフォルトです。「ディスク」でバックアップを行っても、復元時には、ボリューム単位でも復元可能です。下図の緑枠内のチェックを行って「次へ」をクリックしてください。



保存先の設定画面が下記の画面のように表示されます。緑枠部分の「フォルダーを選択」をクリックしてください。



保存先指定可能な下記の画面が表示されたら、左側より「Wasabi」をクリックします。



画面右側に、「アクセスキー ID」と「シークレットキー」の入力画面が表示されるため、事前に Wasabi 側でバケット作成した時に csv 形式でダウンロードされるファイルを参照して入力してください。

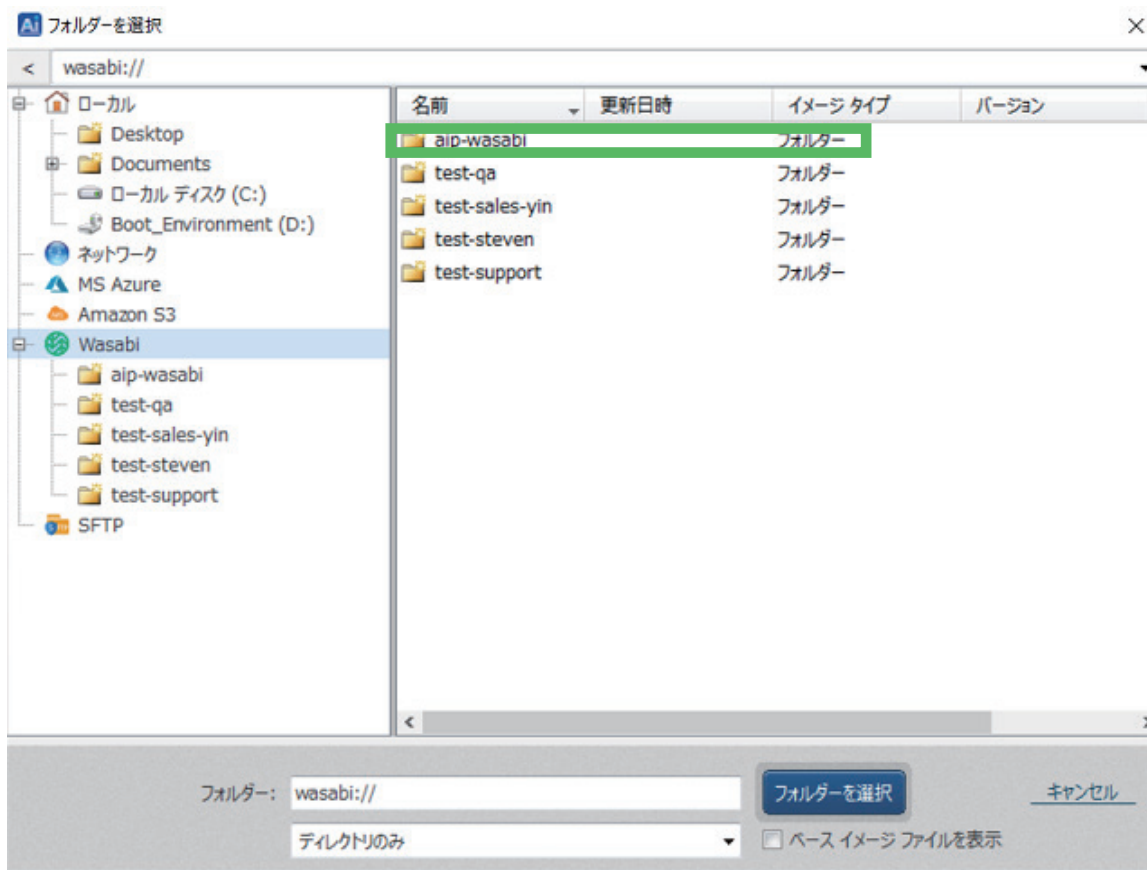
アクセス キー ID :

シークレット キー :

リージョン :

認証情報を入力してください。

接続すると作成されているバケットが一覧で表示されるため、保存したいバケットを選択してください。



バケットを選択すると、「フォルダー」にパスが表記されます。確認して「フォルダーを選択」をクリックして、保存先の確定をしてください。

フォルダー:

ディレクトリのみ ☐ ベース イメージ ファイルを表示

Wasabi へのバックアップ保存先設定は完了した状態になります。下記の画面の右側で、必要に応じて圧縮率、パスワード設定を行います。デフォルト設定がバックアップ速度が優先となるため、特に問題なければ、デフォルト設定で、「次へ」をクリックします。

ボリューム バックアップ

1 対象の選択 **2 保存先の指定** 3 スケジュール 4 確認

タスク名：
Backup_20220727_1345

保存先：
wasabi://aip-wasabi フォルダーを選択...

コメント：

☐ 保存先隔離オプション：
☒ バックアップ後にドライブレターを解除する
☐ バックアップ後に保存先 HDD をオフラインにする
☐ バックアップ後に保存先のリムーバブル USB HDD を取り外す
☐ バックアップ後に指定したネットワークを無効にする
 ネットワーク インターフェースを選択してください

オプション： < 高度な設定

☒ 圧縮
☐ 重複排除圧縮
 レベル 2 (推奨)
 一時ファイル フォルダーを変更

☒ 通常圧縮
 高速

☐ パスワード保護
 パスワード
 パスワードの確認
 強度：
☐ 暗号化
 AES 128 ビット

< 戻る **次へ >** キャンセル

バックアップスケジュールを設定します。マルチスケジュールが可能なため、細かな設定が可能です。ベースを第何週目の何曜日に設定するなど、必要に応じてスケジュール設定を行い、「OK」をクリックしてください。

スケジュールの設定

Backup_20220727_1350 有効化日時： 2022/07/27 14:06 ~ 2023/07/27 14:06 ☒ 期限なし

タスクタイプ：
☐ ワンタイム バックアップ ☒ **スケジュール バックアップ**

ベース：
☒ 週単位
 日曜日 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日

実行時間： 14:06

増分：
☒ 週単位
 日曜日 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日

☐ 一定間隔で複数回実行
 開始時刻： 07:00 ☒ 終了時刻： 21:00 実行間隔： 60 分ごと

☒ 一回のみ実行： 11:06

新規トリガーを追加（ベース） 新規トリガーを追加（増分）

イベント バックアップ：
☐ システムのシャットダウン/再起動 ベースと増分

オプション：
☐ スキップされたスケジュール タスクを自動的に実行する
☐ ベース バックアップがスキップされていた場合、優先して実行する

OK キャンセル

次の画面では、世代管理のオプション設定を行うことができます。この世代管理の機能は、Wasabi でも使用することができます。

ボリューム バックアップ

1 対象の選択

2 保存先の指定

3 スケジュール

4 確認

タスクタイプ: スケジュール バックアップ
有効化日時: 2022/07/27 14:06
ベース: 週単位: 日曜日、14:06
増分: 週単位: 月曜日～金曜日、11:06

スケジュールを編集

ポスト バックアップ プロセス

☒ BootCheck: 未設定

☒ イメージ検証: 未設定

☒ 結合: 未設定

☒ レプリケーション: 未設定

オプション:

☒ 保有ポリシーを有効にする 保有対象外となった世代のイメージ ファイルを全て削除

保有するバックアップ イメージの世代数:
3

☐ 新世代作成前に旧世代を削除する

☐ E メール通知を行う タスク失敗時

タスクの優先順位
フル(ベース):
最低 低 中 高
増分:
最低 低 中 高

< 戻る

次へ >

キャンセル

○ 世代管理について

世代管理における、1 世代とは、ベースバックアップの取得が中心となります。例えば、毎週日曜日にベースバックアップを行って、月曜日から金曜日まで増分バックアップでの運用を行う場合、下図のようになります。

3 世代と設定した場合、4 世代目のベースバックアップが作成完了した後で、一番古い 1 世代目のバックアップであるベース + 増分のバックアップファイルが全て削除されるような動作となります。この動作は世代管理のデフォルト設定時の動作で、「ベースを残す」、または「4 世代目の作成前に一番古い世代を削除する」設定も可能ですが、基本はデフォルト設定にてご使用ください。



最後に下記のように、設定の確認画面が表示されます。内容を確認して問題なければ、「完了」をクリックしてください。

ボリューム バックアップ

1 対象の選択 2 保存先の指定 3 スケジュール **4 確認**

バックアップ対象:
バックアップ タイプ: ディスク
バックアップ対象: 0

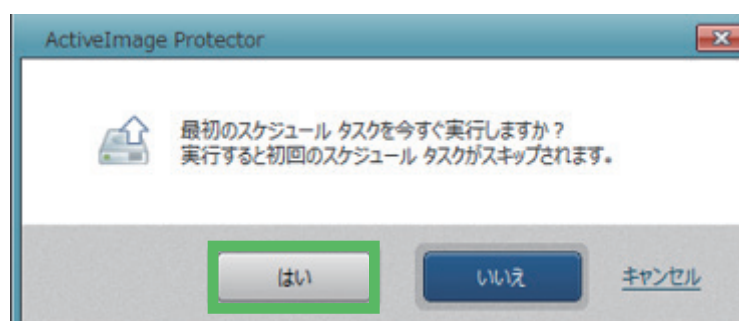
保存先:
イメージ ファイルの予測サイズ: 10.5 GB
保存先: wasabi://aip-wasabi
コメント: なし

オプション:
タスク名: Backup_20220727_1350
圧縮設定: 通常圧縮 (高速)
パスワード: なし
ディスクごとにイメージ ファイルを分割する: 無効
不良セクターを無視: 有効
ディスク メタデータのバックアップ: 有効
アクセス不能ボリュームを無視: 有効
強制的にコンポーネント モードを使用する: なし
除外ファイル: pagefile,hiberfi,volume information

スケジュール:
定期的なバックアップ

エクスポート... < 戻る **完了** キャンセル

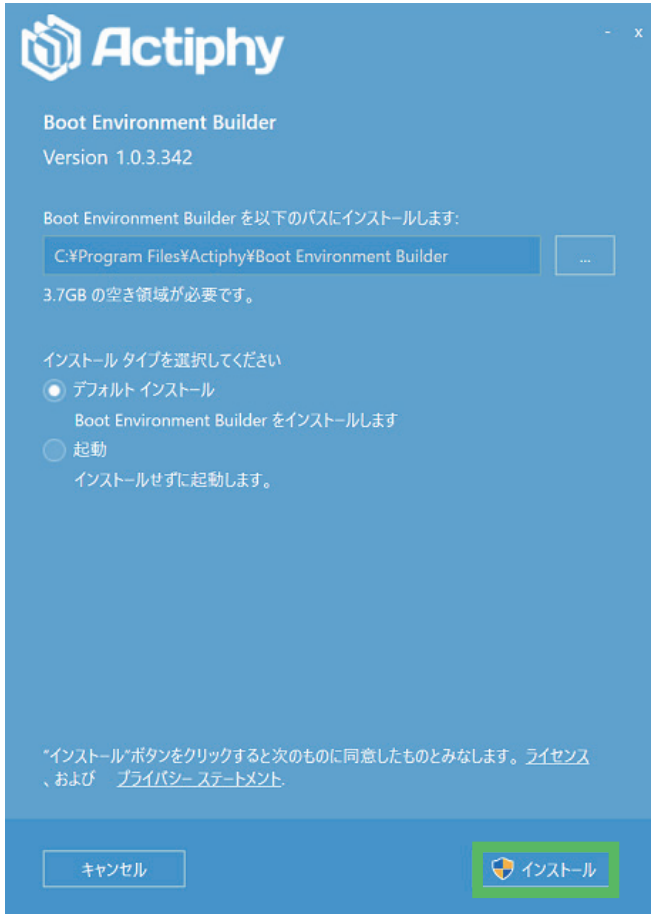
初回タスク作成時には、下記のミニウィンドウが表示され、「直ぐにバックアップ (ベース) を実行する」または「スケジュールまで何もしない」を選択することができます。直ぐに 1 回目のバックアップを実行する場合には、「はい」をクリックします。



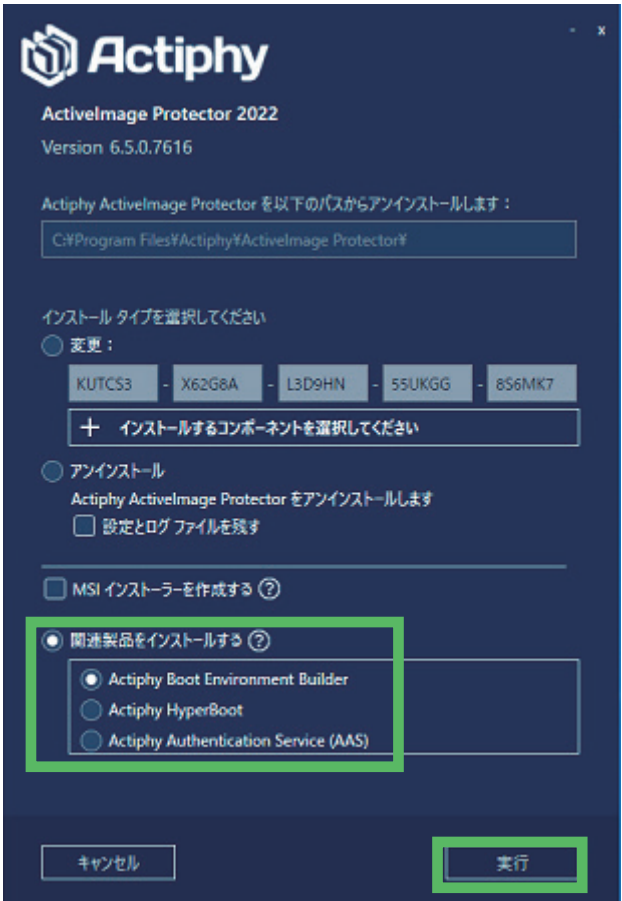
以上で、ActiveImage Protector の Wasabi へのバックアップタスクの設定が完了となります。

・ Actiphy Boot Environment Builder のインストール （起動媒体作成ツール）

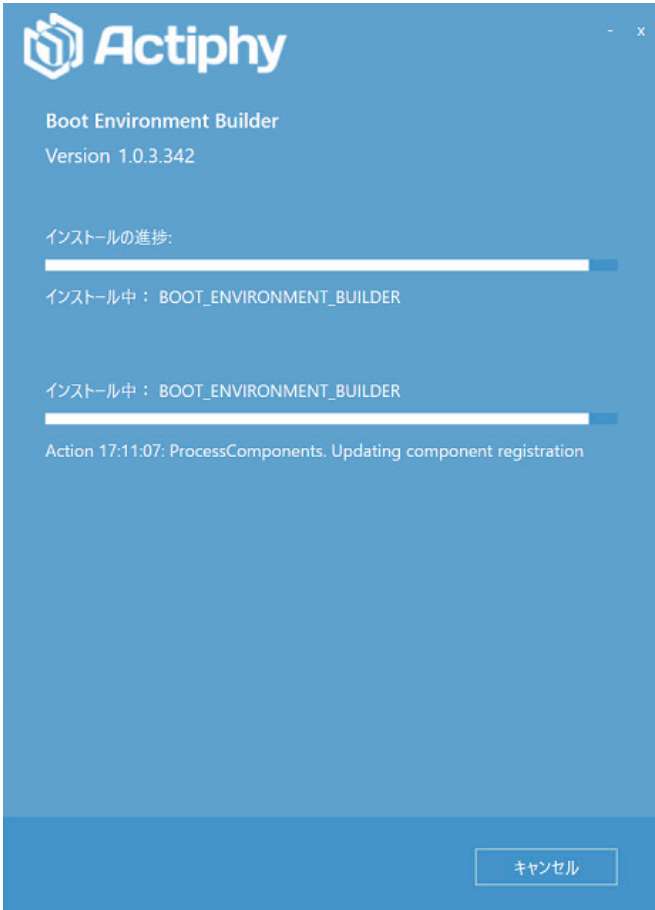
ActiveImage Protector のセットアップを起動して、右記の画面が表示されたら、下段にある「関連製品をインストールする」のラジオボタンと、その下にある Boot Environment Builder のラジオボタンをクリックして、「次へ」をクリックします。



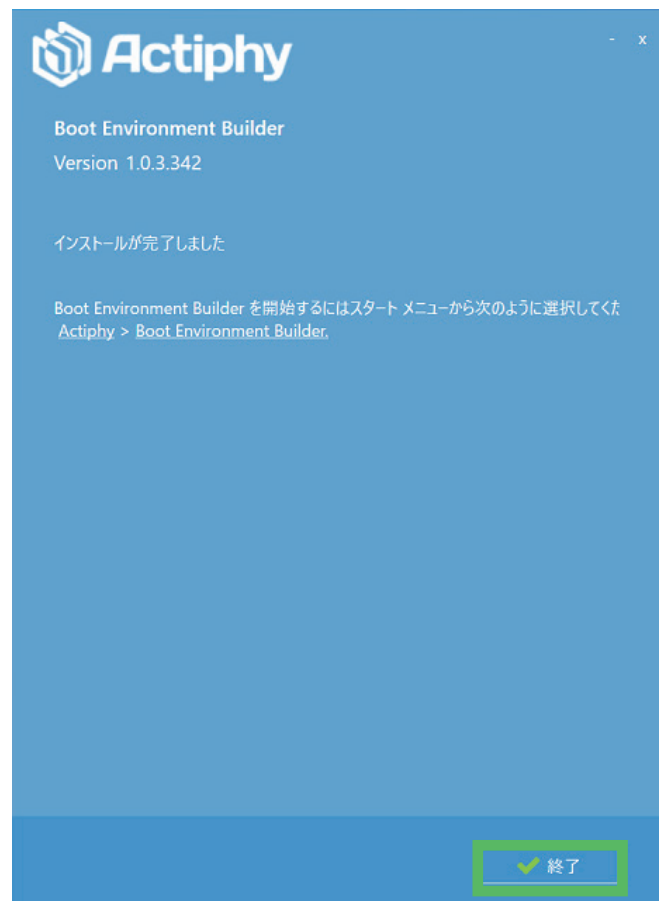
右記のように作成が開始されます。



左記の画面ではこのままデフォルト設定のまま、「次へ」をクリックしてインストールを実行します。



インストールが完了したら「完了」をクリックしてください。



○ Boot Environment Builder で作成する起動媒体の仕様について

起動媒体の使用 OS は、Windows PE ベース及び Linux OS (Debian) ベースより選択が可能です。(Debian ベースの起動媒体作成の場合には、プロダクトキーが必要です。) 使い分けとしては下記の通りです。

バックアップ対象が Windows OS の場合 => Windows PE ベース 及び Linux ベース

バックアップ対象が Linux OS の場合 => Linux ベース (Windows PE ベースはライセンス上使用出来ません)

Windows PE ベース

基本的な作成では、Windows RE を利用して作成されるので、Windows ADK のインストール及びアドオンの Windows PE のインストールは必要ありません。このため、バックアップ対象に Boot Environment Builder をインストールしやすくなりました。直接バックアップ対象へインストールすることにより、ドライバーも起動媒体作成時に入れることが可能です。

もし Windows RE が無い環境で、起動媒体が作成出来ない場合には、別途 Windows ADK をインストールして、アドオンの Windows PE を追加してから、起動媒体の作成を行ってください。

Linux ベース

Debian ベースの起動媒体の作成が可能です。LVM 環境の場合には、必ず Linux ベースの起動媒体が必要となります。

Linux ベースの起動媒体では、Windows PE ベースのように、オンメモリで動作も可能です。

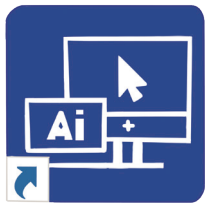
(その場合メモリを 3GB 以上必要となります)

媒体について

起動媒体としては、下記の中より必要に応じて選択して作成することができます。

- ISO イメージ
- USB メモリ /SSD/HDD
- DVD メディア

・起動媒体の作成



左記のデスクトップアイコンなどをクリックして、Boot Environment Builder を起動します。

ActiveImage Protector で作成したバックアップファイルを使用して、システム全体の復旧（復元ディスクが新規または OS が起動出来ない場合など）を行う場合、起動媒体を使用して、システムを起動して復旧することができます。

起動初期画面は下記のように表示されます。 プロダクトキーを入力しない場合には、リカバリー専用の起動媒体が作成されます。（Windows PE ベースのみ作成可能） プロダクトキーを入力して作成する場合には、コールドバックアップも使用することができます。また起動媒体のエンジンの Linux ベースも選択が可能になります。このガイドでは、Windows OS の環境を復旧することのみを想定して記述しているので、デフォルト設定の状態で、「次へ」をクリックしてください。



Actiphy Boot Environment Builder

Actiphy Boot Environment Builder は、ペアメタル バックアップと復元のために ActiveImage Protector を構成したスタンドアロンで起動可能なメディアを作成します。
* バックアップ機能を有効にするには、有効な ActiveImage Protector のプロダクト キーが必要です。

☒ プロダクト キーを使用せずに起動環境を作成する

☐ プロダクト キーを使用して起動環境を作成する

ActiveImage Protector のプロダクト キーを入力してください

起動環境のタイプを選択してください

☒ Windows RE/PE ベースの起動環境

☐ Linux ベースの起動環境

作成する起動媒体のデバイスを設定します。このガイドでは ISO ファイルとして作成しますが、必要に応じて、DVD メディアまたは USB メモリ /SSD/HDD より選択してください。設定が完了したら「次へ」をクリックしてください。USB 機器で作成する場合には、USB 機器を接続して認識した状態であれば、選択することができます。



起動環境の指定

起動環境の作成形態を指定してください。

☒ DVD メディア

光学メディア/ISO イメージに起動環境を作成します。

ISO イメージの新規作成

C:\Users¥Administrator¥Documents¥AIPBE.iso

参照...

☐ 以下のメディアへ書き込む：

使用するデバイス： VMware SATA CD01 ▼

☐ USB デバイス

USB メディアに起動環境を作成します。

USB デバイス： リムーバブル デバイスが見つかりません ▼

使用する Windows PE のエンジンの選択を行います。基本的には、デフォルトの Windows RE のまま進めます。バックアップ対象の Windows OS に回復パーティションがない場合のみ、下記の「Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK)」を選択します。この設定を選択する場合には、先に Windows ADK のダウンロード & インストールを行い、その後アドオンの Windows PE をインストールする必要があります。「次へ」をクリックします。

ツールの選択

起動環境を作成するためのツールを選択してください。

☒ Windows RE

このコンピューターに構成されている Windows RE を使用します。

☐ Windows アセスメント & デプロイメント キット (ADK)

Microsoft が提供する Windows ADK を使用します。

選択してください...

次の画面では、ドライバーの追加を行うことができます。バックアップ対象のマシンに、Boot Environment Builder をインストールして起動媒体を作成している場合、復元対象のマシンのドライバーを簡単に起動媒体に組み込むことができます。必要に応じてドライバーを選択して組み込みを行って下さい。作業が完了したら、「次へ」をクリックしてください。

デバイス ドライバーの追加

起動環境に組み込むネットワーク、またはストレージ デバイスのドライバーを指定してください。

製造元	デバイス名
▼  ネットワーク アダプター	
☐ Intel Corporation	Intel(R) 82574L Gigabit Network Connecti
☐ Intel Corporation	Intel(R) 82574L Gigabit Network Connecti
▼  ストレージ アダプター	
☐ 標準 NVM Express コントローラー	標準 NVM Express コントローラー
▶  テープドライブ	
▶  その他のドライバー	

※LTO などへの保存の場合には、テープデバイスを登録する必要があります。

次は環境設定です。基本的には日本語環境で使用する場合であれば、デフォルト設定で問題ありません。確認後「次へ」をクリックしてください。

 **環境設定**

起動環境の設定をしてください。

 表示言語
日本語 ▼

 キーボードタイプ
106 キー 日本語 ▼

 キーボードレイアウト
日本 ▼

 タイムゾーン
(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京 ▼

 画面解像度
1024 x 768 : XGA (推奨) ▼

次に作成の画面が表示されます。内容を確認して問題なければ「実行」をクリックしてください。処理が完了したら終了です。

サマリー

作成を開始するには「実行」ボタンをクリックしてください。

ツール :	Windows RE
作成先 :	C:\Users\Administrator\Documents\AIPBE.iso
タイムゾーン :	(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京
表示言語 :	日本語
キーボードタイプ :	106 キー 日本語
キーボードレイアウト :	日本
画面解像度 :	1024 x 768 : XGA (推奨)
予想サイズ :	689 MB

進捗 (全体) :

進捗 (ステップ) :



キャンセル

< 戻る

実行

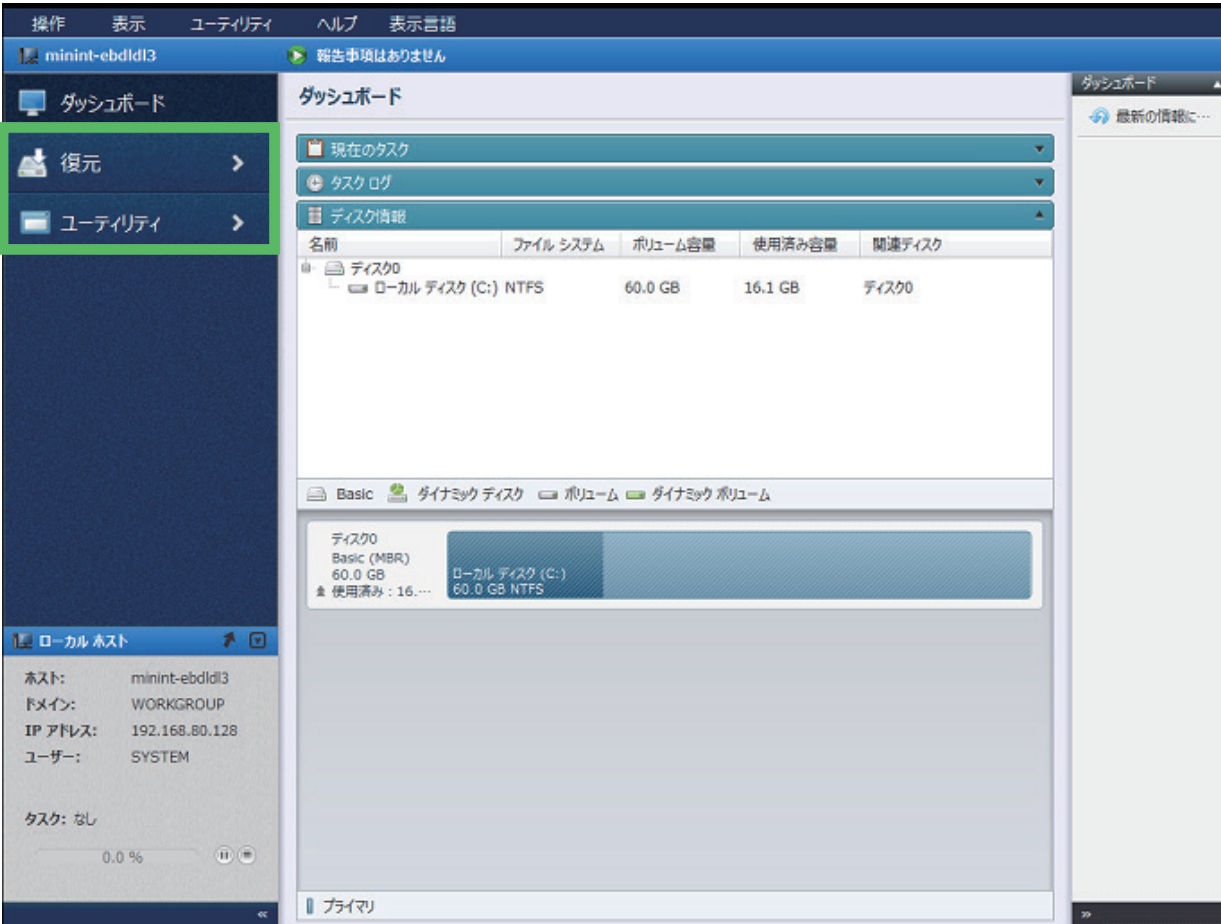
ISO で作成した場合、右記の画像のように iso ファイルが作成されます。このガイドでは仮想マシンに ISO 登録をして起動できるようにしています。



AIPBE

・システムのリカバリー手順

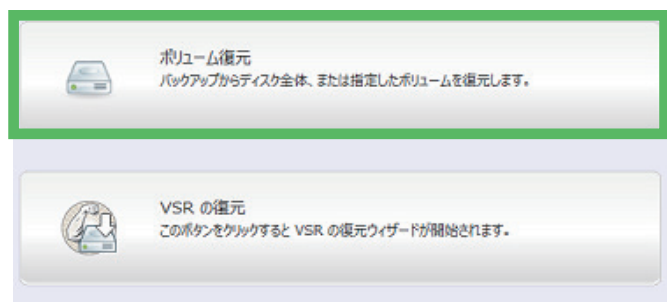
リカバリーメディアで起動すると下図の画面が表示されます。復元を行うには、「復元」をクリックしてウィザードの通りに操作を行います。ネットワークの設定を行う場合は、「ユーティリティ」をクリックしてください。



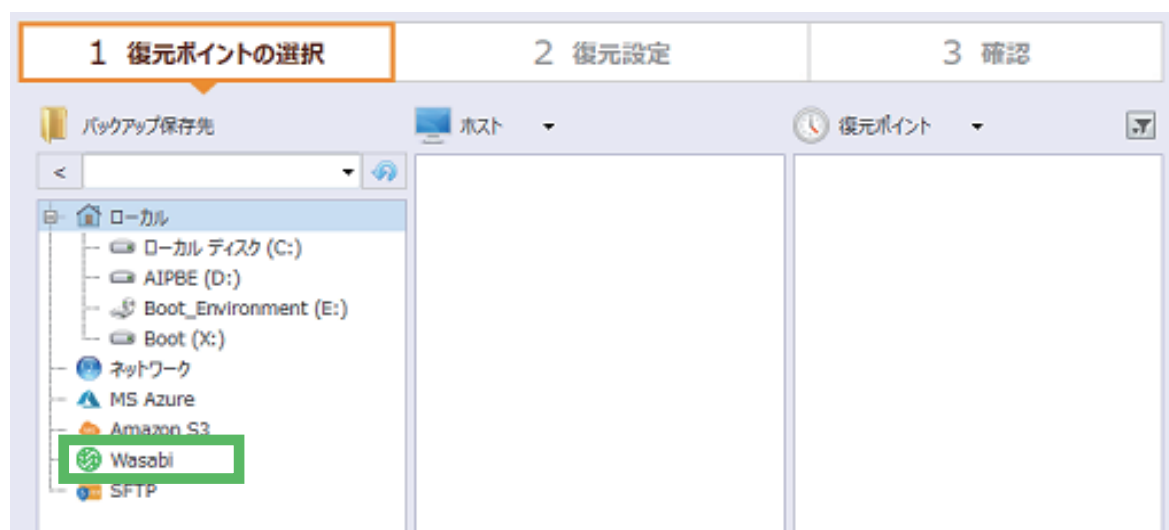
「ユーティリティ」をクリックすると下記の画面が表示されます。ネットワークの設定は DHCP 環境でない場合などに、固定 IP などの設定を行うことができます。また UNC パスとログイン情報を入力して NAS などにログインして、共有フォルダからバックアップファイルを使用して復元することができます。また ipconfig/ping コマンドなどもコマンドプロンプトより実行できるので、トラブルシューティングにご利用頂けます。元の画面に戻りたい場合などは、左側のペインのダッシュボードをクリックすると、初期の画面に戻ります。



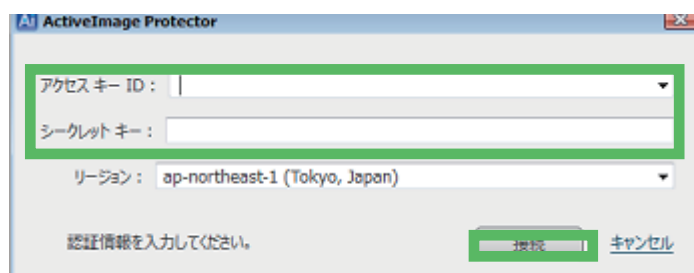
今回の環境では、DHCP 環境でインターネットに接続しているので、「ダッシュボード」から「復元」をクリックすると、下記の画面が表示されます。「ボリューム復元」をクリックします。



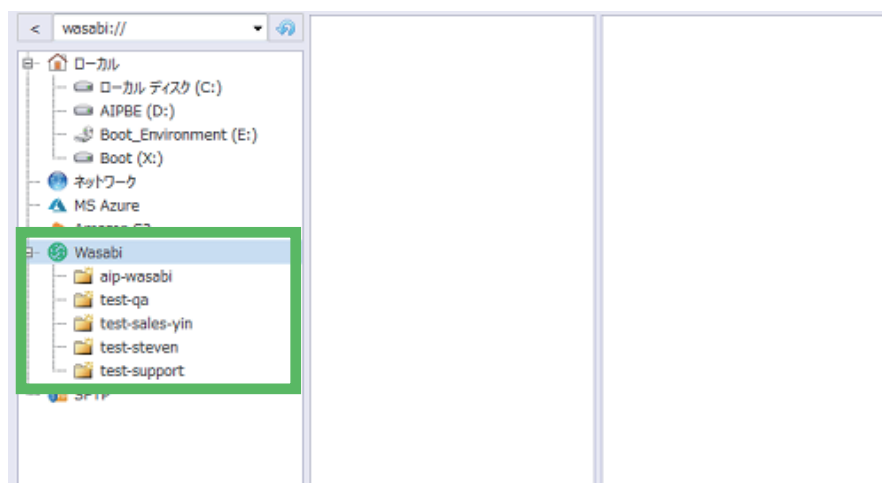
バックアップファイルの保存先にアクセスします。今回は Wasabi に保存しているので、下記の画面で、「Wasabi」アイコンをクリックします。



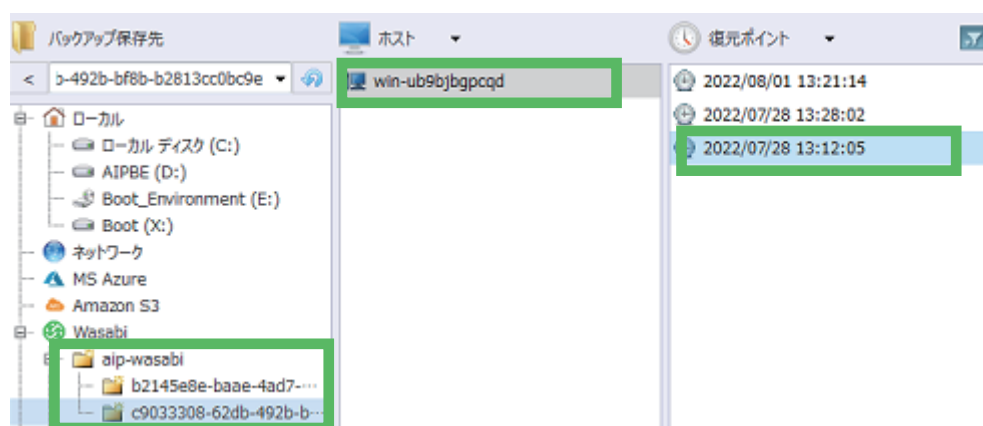
下記のように「Wasabi」のログイン画面が表示されますので、バックアップの時に使用した「アクセスキー ID」と「シークレットキー」を入力して「接続」をクリックしてください。



接続すると、下記のように Wasabi のバケットが表示されますので、バックアップファイルを保存したバケットを選択してください。



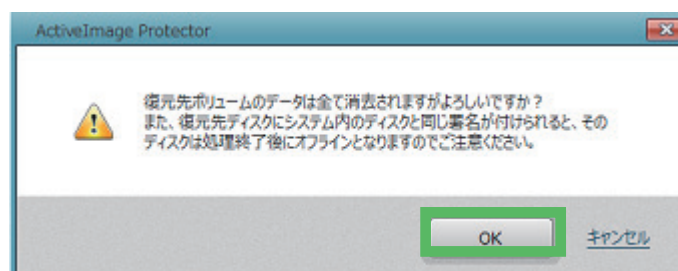
左側から保存先バケットとフォルダの選択、ホスト名確認、リカバリーポイントの選択を行い、どのバックアップファイルから復元するか選択します。選択後「次へ」をクリックします。



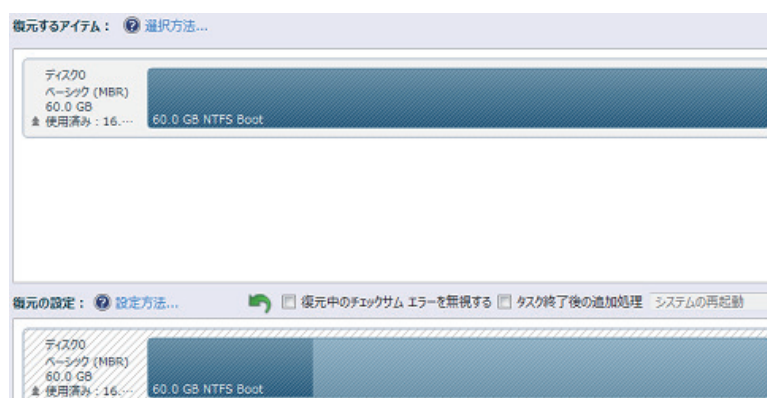
下記のように復元先の選択画面が表示されます。下記の画面の赤枠内で右クリックを行うと、下記の画面のように、プルダウンメニューが表示されます。その中から復元したいディスクをクリックして、選択します。



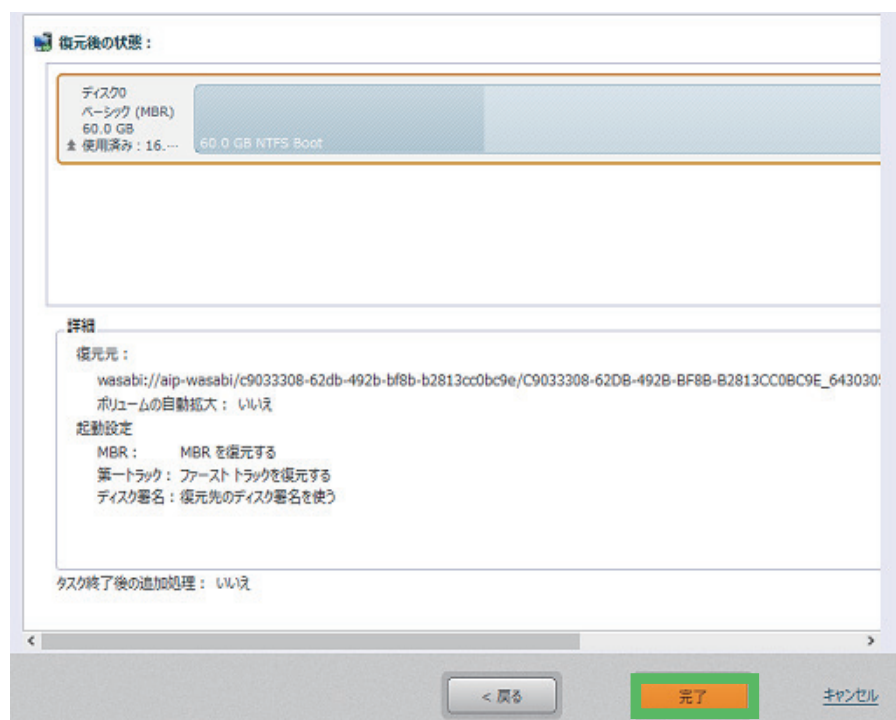
復元を行うと、ボリューム全体のデータが消えることの確認ウィンドウが表示されるので、問題なければ「OK」をクリックします。



復元先のディスクのイメージが表示されますので、問題なければ、「次へ」をクリックします。



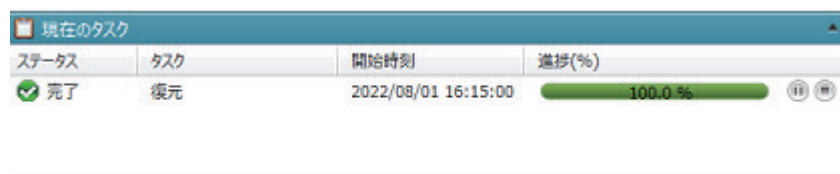
最終の確認画面が表示されます。内容を確認して問題なければ、「完了」をクリックします。



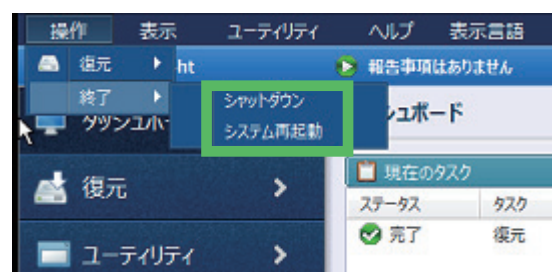
画面は下記のように、「ダッシュボード」へ切替わり、リカバリーの進捗が表示されます。



右記のように画面のステータスが「完了」になれば復元処理の終了です。

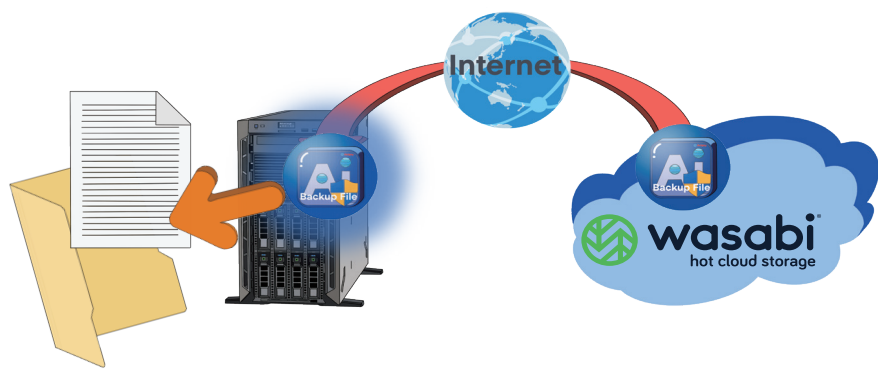


コンソール左上の「操作」から「シャットダウン / システム再起動」を選択してください。



・ Wasabi からバックアップファイルのダウンロード

ActivelImage Protector は、作成したバックアップファイルからファイル / フォルダ単位で復元することができます。しかし Wasabi をはじめとする、S3 互換オブジェクトストレージでは、直接バックアップファイルをマウントすることができません。このため、一度オブジェクトストレージからバックアップファイルをダウンロードして、バックアップファイルのマウントを行う必要があります。

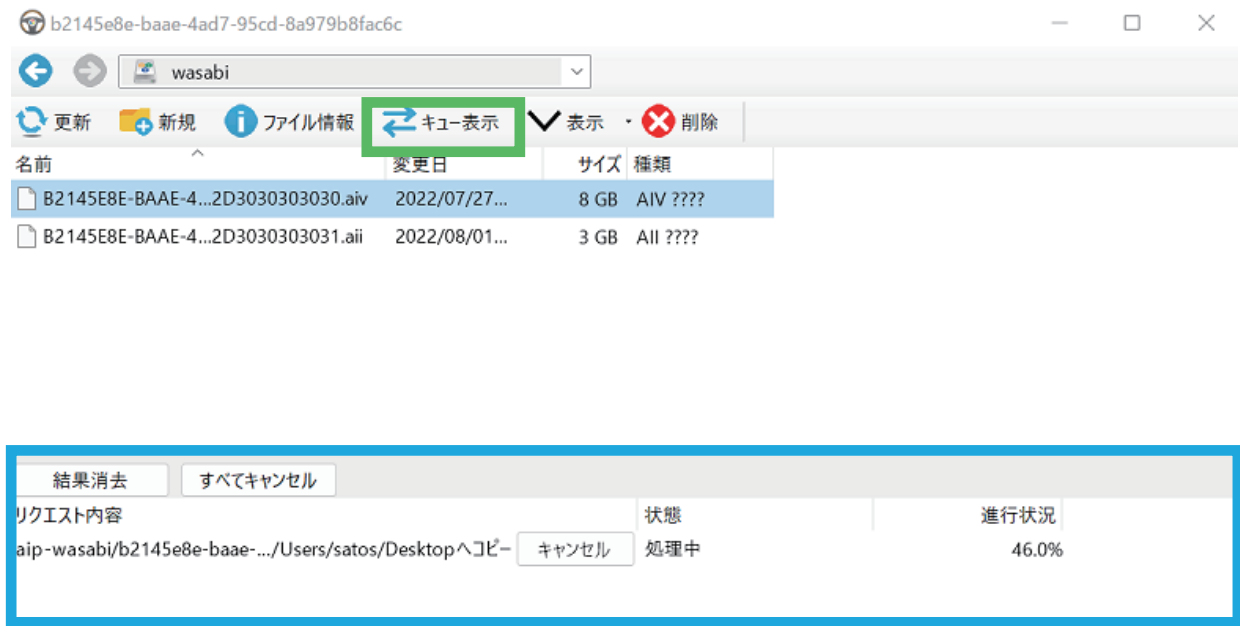


ActivelImage Protector では、直接オブジェクトストレージ上のバケットに保存されたファイルを、ダウンロードする機能は現在ありません。しかし、オブジェクトストレージよりファイルを直接ダウンロードできるエクスプローラーは、色々あります。例えば、CloudBerry Explorer などをインターネット上で検索すると見つめることが出来ると思います。今回の例では無料で現在使用出来る「firedrive」を使用しています。このソフトウェアでは、複数のストレージサービスを一括で管理して、簡単に参照できます。設定は、アクセスキー、シークレットアクセスキーと https:// 形式でエンドポイントを入力して設定します。一度設定することにより簡単にアクセスが可能です。

「firedrive」を実行すると、下記のように各バケットが参照できます。アクセスしたバケットをクリックして、必要なファイルはドラッグ & ドロップでローカル環境にコピーが可能です。



下記の画面の「キュー表示」をクリックすることで、画面下側にダウンロードの進捗情報が表示されるため、ダウンロードが完了するまでそのままにします。



※バックアップファイルのダウンロード完了後は、通常の ActivelImage Protector の操作でファイル / フォルダ単位で復元することができます。

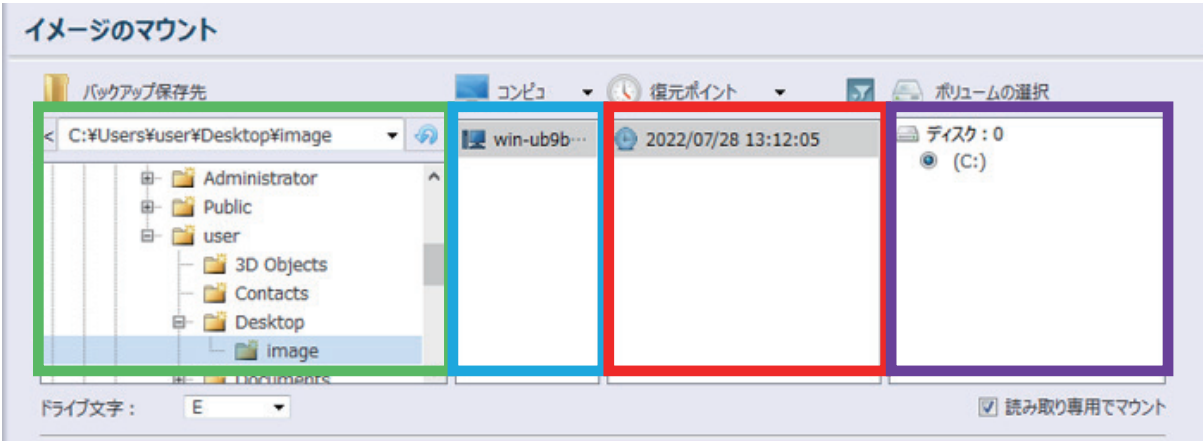
・ファイル/フォルダ単位の復元

ActiveImage Protector で取得したバックアップファイルをローカルのマシンにダウンロード
完了した後は、ActiveImage Protector のコンソールからファイルをマウントします。
ActiveImage Protector のコンソールより、右記の画面の「イメージ管理」をクリックします。

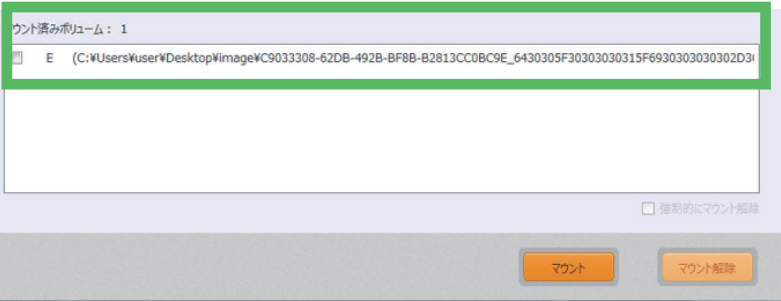


左記の画面が表示されるので、「イメージのマウント」をクリックします。

下記の画面が表示されます。初めに緑枠部分で、バックアップファイルをダウンロードしたフォルダを選択します。青枠では
ホスト名が表示されるため、使用したいホスト名を選択します。赤枠で、選択したホストマシンのリカバリーポイントが表示
されるため、タイムスタンプを確認して、必要なタイミングのバックアップファイルを選択します。紫枠で、そのバックア
ップファイルに含まれるボリュームが表示されるため、復元したいファイル/フォルダの含まれているボリュームのラジオボ
タンをクリックします。

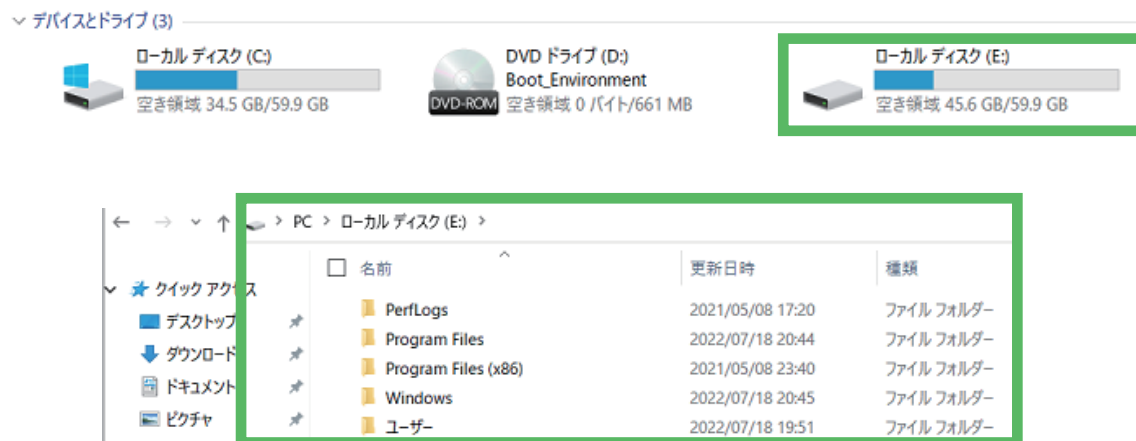


全ての選択が完了したら、右記の画面下にある「マウント」ボタンをクリックして、
バックアップファイルをマウントします。

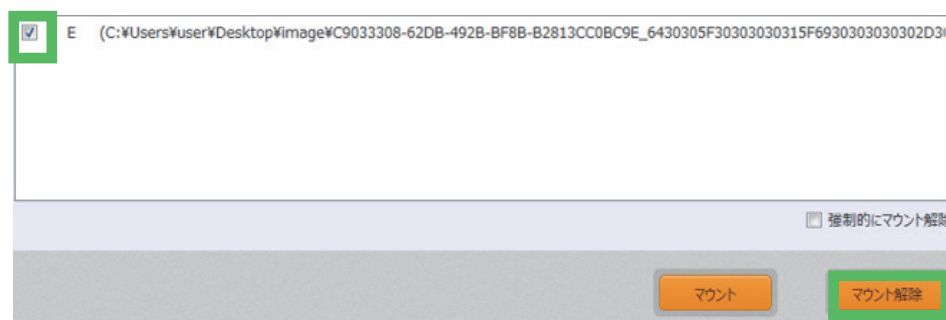


マウントが完了すると、左記の画面のように、表示されます。

バックアップファイルのマウントが正常に行われると、下記の画面のように Windows エクスプローラーでも通常のボリュームとして認識され、ドラッグ & ドロップで必要なファイルを取り出すことが可能となります。



作業が完了したら、再度 ActiImage Protector のコンソールから、マウントしたボリュームのチェックボックスにチェックを入れて、下にある「マウント解除」ボタンをクリックしてください。これで、マウントしているバックアップファイルは解除されます。



解除されると、マイコンピュータ上のボリュームの表示が消えます。



ActiImage Protector のバックアップ保存先に Wasabi を使用した、基本操作は以上となります。もちろん、Wasabi と オンプレミスの NAS へのバックアップ運用なども併用することが可能です。また取得したバックアップファイルの活用方法も ActiImage Protector では多彩にご用意しております。このガイドについて、または ActiImage Protector についてのご質問はお気軽に下記にご用命ください。

株式会社 アクティファイ

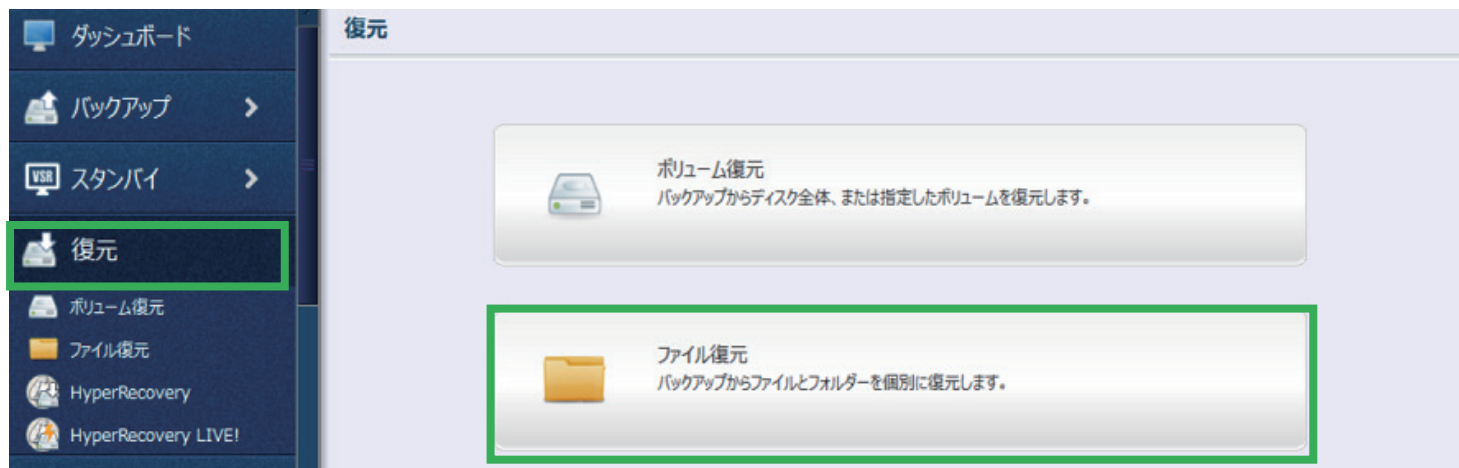
TEL :03-5256-0877

E-mail:sales@actiphy.com

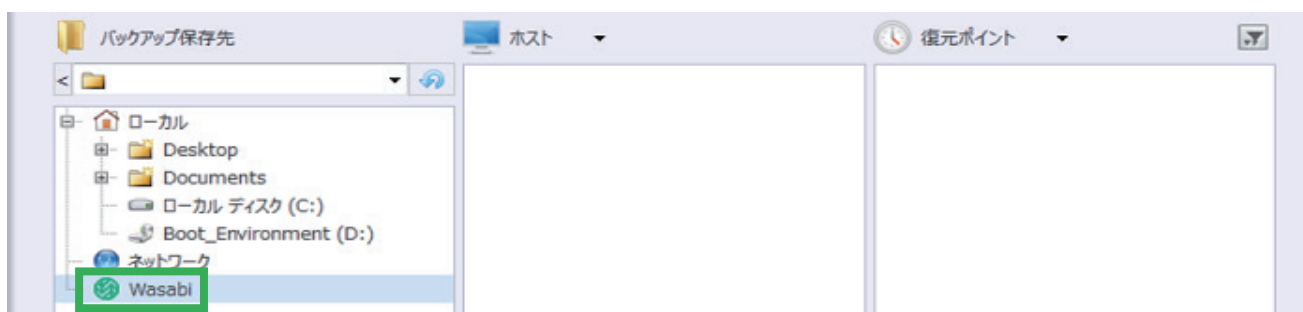
URL:www.actiphy.com

- Wasabi 上のバックアップファイルから直接ファイル / フォルダの復元

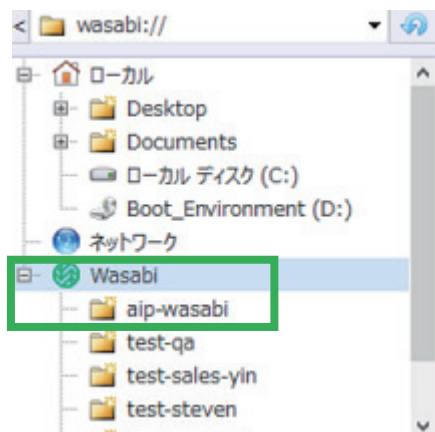
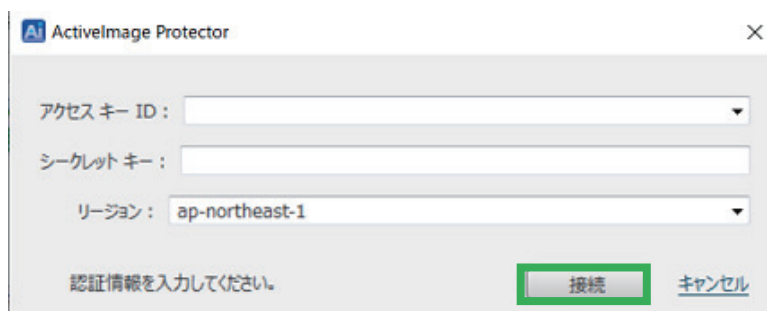
ActiveImage Protector のコンソールより、下記の画面のように、先に左側の「復元」をクリックすると、右側に「ファイル復元」が表示されるので、クリックします。



下記の画面が表示されたら、「Wasabi」をクリックします。

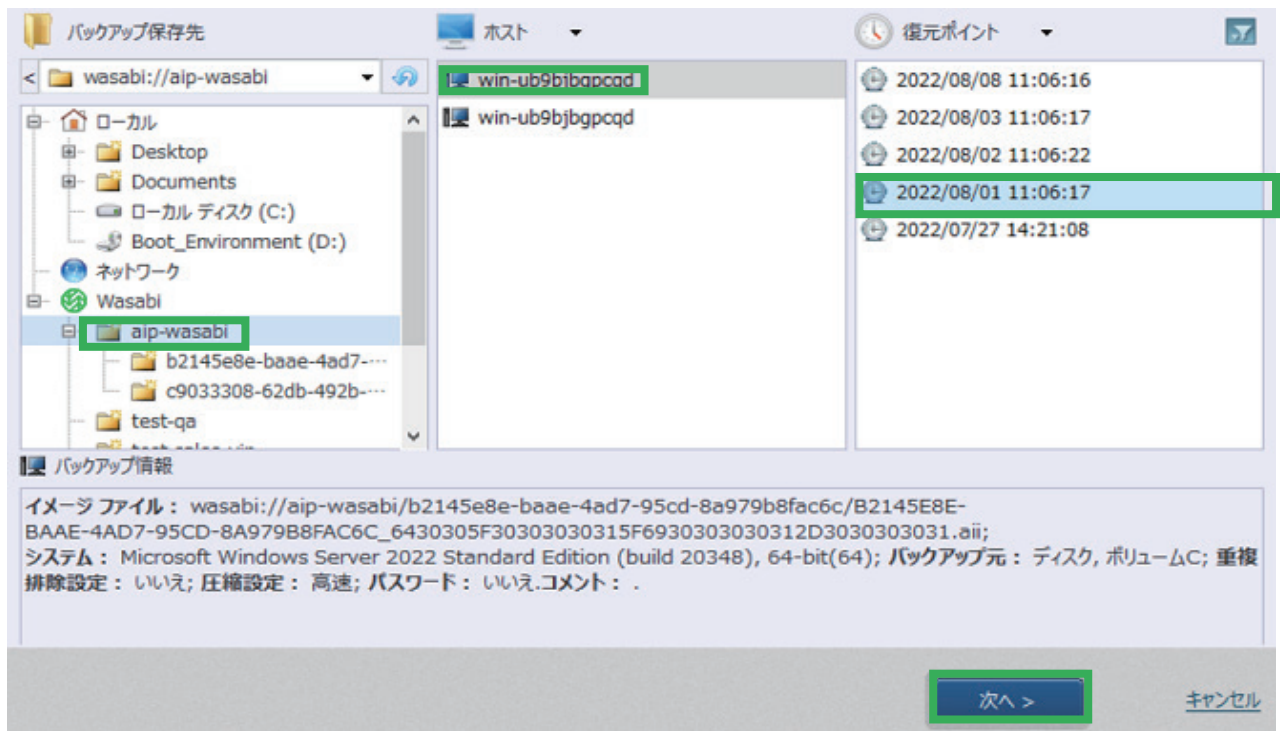


Wasabi へのログイン画面が表示されます。「アクセスキー ID」と「シークレットキー」を入力して、「接続」をクリックします。



接続すると、左側のように Wasabi のバケット一覧が表示されるので、バックアップファイルを保存したバケットを選択してください。

バックアップファイルを保存したバケット選択後、バケット内の保存されたバックアップファイルのホスト名から、復元したいファイル/フォルダのあるリカバリーポイントを選択して、「次へ」をクリックします。



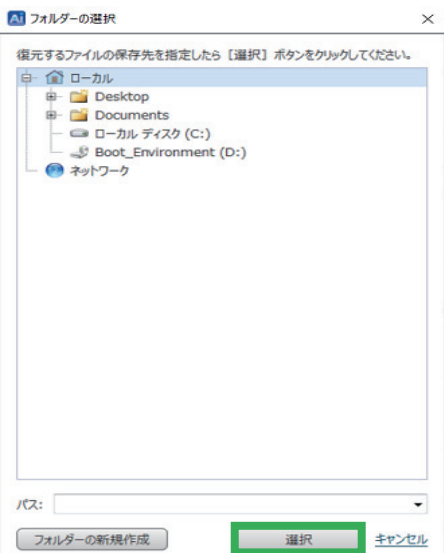
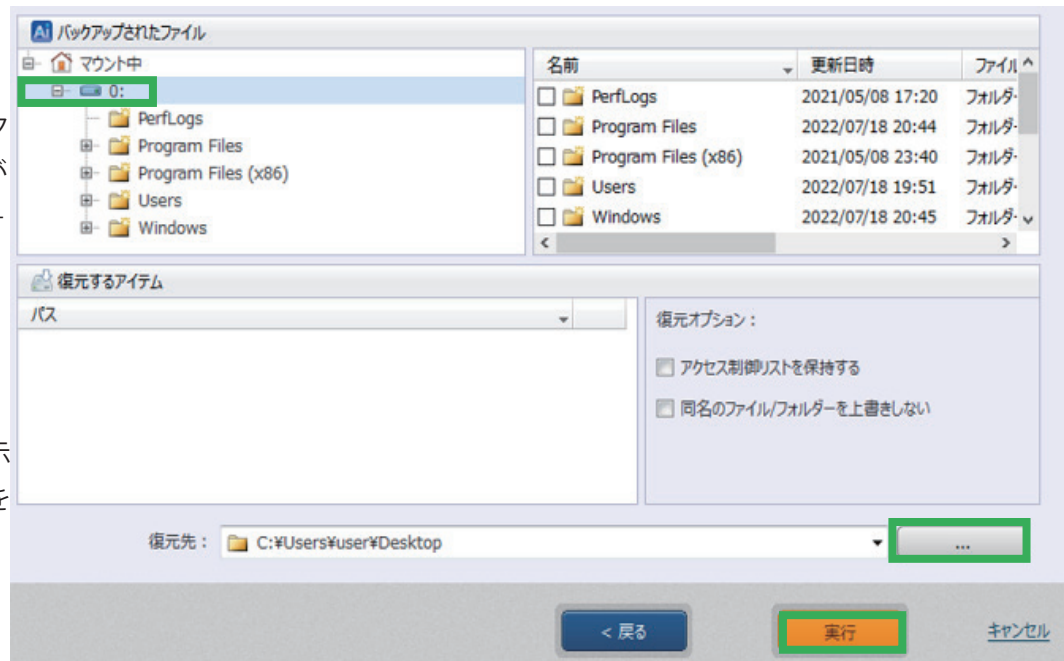
復元ポイントをマウントしています...



「次へ」をクリック後、復元ポイントのマウント処理を行います。

右記の画面で、バックアップファイルに含まれているディスク部分をクリックすると、含まれるファイル/フォルダが展開されるので、必要なファイル/フォルダを選択してください。

選択後に、「復元先」の右側ボタンをクリックして、復元先の設定を行ってください。下記のように選択画面が表示されます。フォルダ選択後に「選択」をクリックします。



復元対象と、復元先が決まったら、上記画面の「実行」をクリックします。

処理が開始されると、「復元ポイントのマウントを解除しています」と表示され、解除後に、復元処理が開始されます。

復元ポイントのマウントを解除しています...



処理が完了するとファイル / フォルダ復元が完了となります。

※沢山のファイル / フォルダの復元及び、複数に点在するファイル / フォルダの復元の場合には、このガイドの 18 ページから記載の、別ツールを使用して、Wasabi 上のバックアップファイルを一度ローカルにダウンロードしてから、ローカル上のバックアップファイルをマウントして復元した方が、作業効率が向上します。

環境、状況によって方法を選択してファイル / フォルダ単位の復元を行ってください。



© 2022 Actiphy, Inc. 無断複写・転載を禁止します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントは株式会社アクティブアイに所有権および著作権があります

本ガイド中のその他のブランド名及び製品名は、それぞれ帰属する所有者の商標または登録商標です。

